

これで安心! スマホ防災

地震などの災害に遭ったとき、どのように行動すべきか、即座に判断できますか？ 緊急速報が来なかったり、家族の安否が確認できなかったりすると大変なこと。いざそのための、備えておくことが重要です。本特集で提案するのは“スマホ防災”。災害時に、普段から持ち歩いているスマホが大活躍します。安全・安心を守るスマホ防災を考えましょう。

文／原 如宏

いざというとき! スマホが防災ツールになる

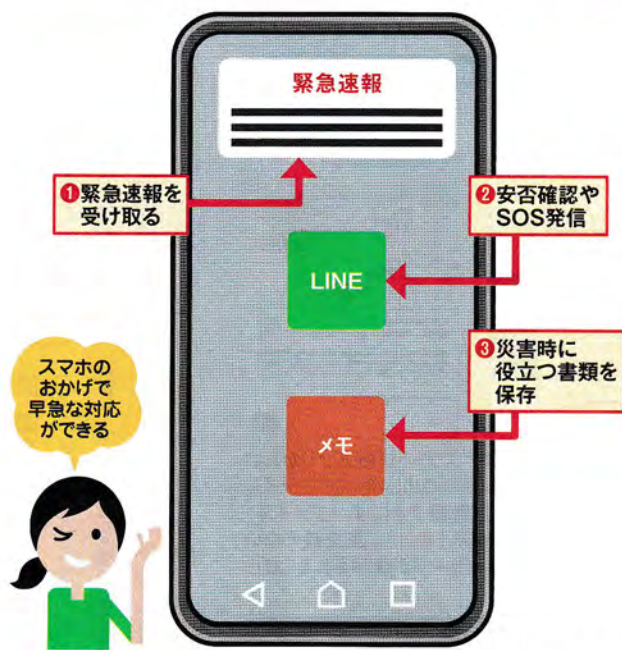


図1 常に持ち歩くスマホだからこそ、災害時も情報収集や安否確認、緊急通報などのさまざまな場面で役に立つ。もし通信環境が絶たれても、スマホ内に各種データを保存しておけば連絡が取れやすくなり、各種サービスを受けやすくなります

ある日突然起こる大地震、毎年のように被害をもたらす台風やゲリラ豪雨など、自然災害から逃れられない日本。こればかりは人ごとと考えず、日ごろから対策をしている人が大半だろう。そんな防災対策の一環として、スマホの活用方法を見直したい。スマホは通信環境が絶たれたり、バッテリーが切れたりしたら使いものにならないが、かといって無用の長物ではない。なぜならスマホは家族などの連絡先はもち

ろん、緊急時のマニュアル(書類)を保管できるからだ。特に電話番号は昔のように覚える習慣がなくなったため、スマホがないと誰とも連絡が取れなくなる可能性がある。そんな事態に陥らないように、スマホを防災ツールの一つとして考え、災害時に使えるようにしておこうというわけだ。まだ何もしていないという人がいたら、この機にスマホの設定を確認し、役立つアプリの導入を進めよう。

総論

情報入手から安否確認まで、 スマホが防災ツールになる

スマホを防災ツールとして役立てるには、どうすればよいのか。本特集では、まず災害発生の一報を受け取る緊急速報ツールとしての役割、2つめに家族との安否確認や緊急時のSOS発信をする役割、そして災害発生時に必要になる書類を保管する場所としての役割に分けてみた(図1)。

準備内容について、具体的に記したのが図2に示したチェックリストだ。これは86ページから解説するスマホの設定、アプリの活用方法、各種サービスの使い方と、それらに加えて防災の心がけとして用意しておくことをまとめたものになる。

最初にざっと確認して未設定のものや知らない事柄だけ調べるもよし、記事を読んでひと通り設定した後で漏れがないかを調べるときに利用するもよし、状況に応じて役立ててほしい。

なおチェックリストでは、本特集では触れていない、バッテリー切れに備えてバッテリーや充電ケーブルを用意するとか、省電力モードを活用してスマホのバッテリー消費を防ぐという対策にもあえて言及した。記事の解説にとどまらず、自分と家族の安全を守るためのスマホ活用について考え、家族全員で防災意識を高めていきたい。

スマホを防災ツールにするには事前準備と使い方の熟知が不可欠

万が一に備えて準備しておくべきこと

① 緊急速報を確実に受け取れるようにする

☐ **iPhone** 「通知」設定にある「緊急速報」機能をオンにする
⇒86ページ図2参照

☐ **Android** 「通知」設定にある「緊急速報メール」機能をオンにする⇒86ページ図3参照

テスト マナーモード時の挙動・最大音量の確認

② 速報性に優れた**防災アプリ**を“2本柱”として導入する

☐ 「特務機関NERV防災」アプリをインストール⇒
通知・位置情報を許可⇒86ページ図5参照

☐ 「NHKニュース・防災」アプリをインストール⇒地域を設定
⇒87ページ図7参照

テスト アプリ上で警報テストを行い、防災関連情報を調べる

③ 重要な通知を埋もれさせないようにする

☐ **iPhone** 重要アプリのバナー通知を「持続的」に、
プレビュー機能は「常に」にして、要約やグループ化の機能はオ
フに⇒87ページ図9参照

☐ **Android** 重要アプリの通知機能をすべてオンにして、
自動的にアプリを一時停止する機能はオフにする
⇒87ページ図10参照

テスト 設置したアプリが画面ロック時に、
音やポップアップで通知されるか確認

④ 瞬時に家族などに助けを求められるようにする

☐ **iPhone** 緊急SOS機能をオン。操作方法も長押し/5回
押しを併用。医療情報と緊急連絡先も登録
⇒89ページ図15参照

☐ **Android** 緊急SOS機能をオン。緊急連絡先と自分の
医療情報を登録する⇒88ページ図12参照

テスト デモやカウントダウン表示まで確認(誤発信注意)

⑤ ロック画面から“ワンタップ家族連絡”を実行できるようにする

☐ **iPhone** 「ショートカット」アプリで「現在地送信→家族へ
発信」を作成しロック画面に配置⇒89ページ図17参照

☐ **Android** ホーム画面に家族発信用ショートカット
(電話/SMS/現在地共有)を配置

テスト 1タップで家族に発信、現在地を送信できるか確かめる

⑥ 災害時に役立つ**重要書類**を安全に**スマホ**で保管する

☐ **iPhone** 「メモ」アプリに撮影した書類を貼り付け、
ロックをかける⇒90ページ図20参照

☐ **Android** 「Files by Google」アプリの「安全なフォルダ」に
書類画像/PDFを保存する⇒90ページ図22参照

☐ **保存済みのファイルを確認** 保険証/免許証/パスポート/
お薬手帳/各保険証券/通帳表紙/口座番号/
不動産関連書類/公共料金番号/車検証/
家族の顔写真/母子手帳/診察券⇒90ページ図23参照

テスト オフライン時に保存したファイルを開覧できるか確認する

⑦ LINEを**安否確認**、**家族連絡用のツール**にする

☐ 地震後に安否確認サービスが提供されることを確認する
⇒91ページ図2参照

☐ 家族全員に一齐送信できる連絡用グループを作成する
⇒91ページ図3参照

☐ 作成した家族グループに緊急時の集合場所・安否テンプレを
アナウンス固定⇒91ページ図4参照

テスト LINEの安否確認は体験日に使い方を確認。連絡用グル
ープは一齐送信の到達を家族全員で確認する

⑧ 家族全員が安否確認の「171」「web171」を使えるようにする

☐ 災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板の使い方を覚える
⇒92ページ図7参照

テスト 毎月の1日、15日の体験日に家族で利用手順を確認し合う

⑨ 通信環境が**不能**になった場合に備える

☐ iPhone 14以降が対応する衛星経由のSOS機能を覚える
⇒93ページ図12参照

☐ 通話はつながりにくいので、
LINE経由で家族と通話することを頭に入れておく

☐ 「00000JAPAN」の利用と注意点を家族で共有(暗号化なし
/機微情報の入力には避ける)⇒93ページ図14参照

☐ 地元の無料Wi-Fiを導入して使えるようにしておく
(東京都の「TOKYO FREE Wi-Fi」など)

テスト 近所の無料Wi-Fiで自動接続の挙動を確認

■ これらもチェック&用意しておけば万全

⑩ スマホの**バッテリー切れ**に備える

☐ モバイルバッテリー(目安は1万mAh/1人)と
各端子のケーブルを家族分用意する

☐ 端末の低電力モード/省電力操作を確認

⑪ Googleマップなどに**周辺の地図データ**を取り込んでおく

☐ Google/Appleマップで「自宅→職場→実家」一帯を
オフラインダウンロード

テスト 機内モードで地図が開くかを確認する

⑫ 周囲の危険地帯などがわかる「**ハザードマップ**」を入手する

☐ 自治体・国のハザードマップPDFを保存(iPhone=ロック付き
メモ/Android=Filesの安全なフォルダ)

テスト オフラインで入手したハザードマップが開覧できることを
確認する

図2 緊急時用の持ち出しバッグを用意しておくのと同じように、スマホも万が一に備えて設定を整えておくことが重要。ここに示したのは、本特集で解説している主な設定例と、さらに自前で見直しておきたい設定やアイテムなどだ。チェックリストを確認して準備を整え、さらにテストを実行して操作に習熟しておこう

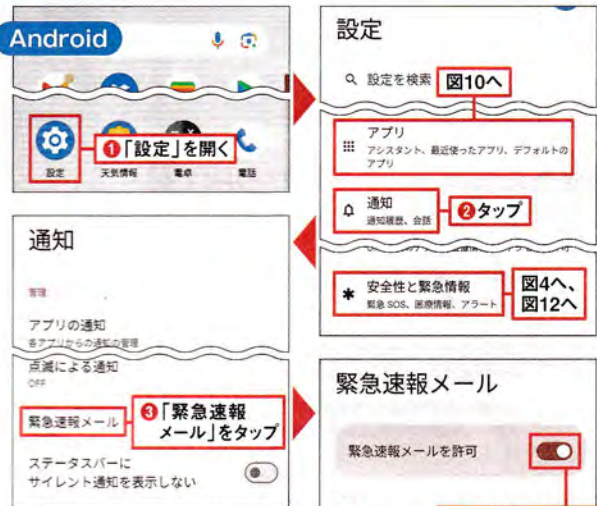


図3 Androidは、通知設定にある「緊急速報メール」を許可しているかを確認する(①~④)。このほか通知テストをしたり、最大音量で通知音を鳴らすか否かの設定もある

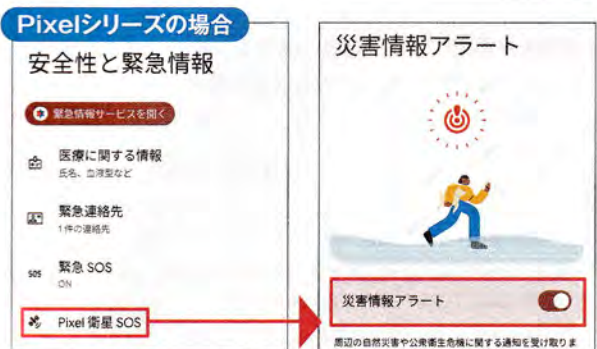


図4 Androidの「Pixel」シリーズでは、グーグル独自の通報機能である「災害情報アラート」を提供。図3右上からこれをオンにすると、万が一、周囲で火事や洪水、竜巻などの自然災害が発生した際に通知が届く



図5 防災に関するアプリでは、緊急通報から、一般的に地震速報まで受け取れる「特務機関NERV防災」がイチオシ。初回起動時に各種通知設定を許可する。アプリを起動すると周辺の情報を確認できる



図1 緊急事態にいち早く気付くには、情報をスマホで素早く受け取ることが重要。標準機能といくつかのアプリを駆使して、重要情報を受け取れる態勢を整えよう



図2 iPhoneで緊急地震速報などの一斉通報を受け取るには、「緊急速報」機能を使う。初期設定でオンになっているが、念のため通知設定にある同項目を確認しよう(①~④)

最初にスマホを緊急ツールとして使う準備をしていく。最初に確認するのは緊急速報を受け取る設定だ(図1)。大半のスマホは、緊急地震速報や津波警報などを一斉送信する、エリアメール(緊急速報を受け取る機能を備えている。まずは、この機能がオフになっていないか確かめる(図2、図3)。

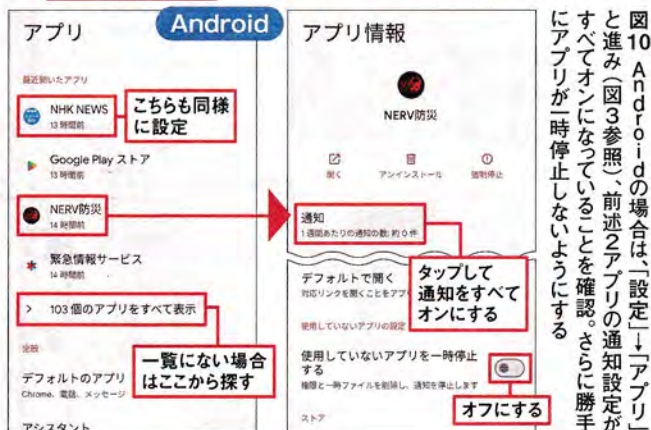
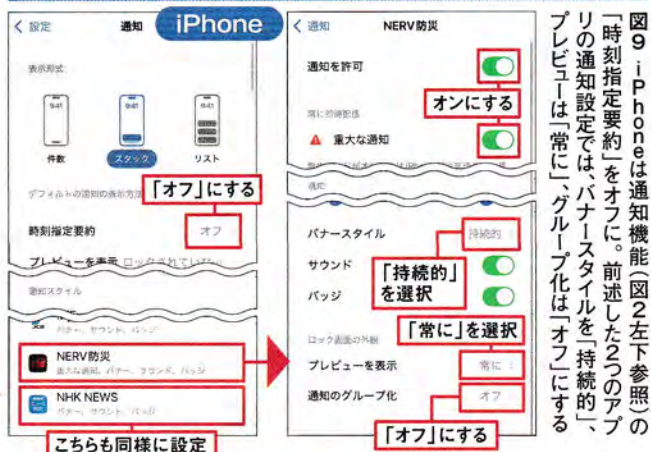
なお、Androidの標準端末である「Pixel」シリーズはグーグルが独自に自然災害を通知する「災害情報アラート」機能も搭載する。この機能が使える端末は、緊急速報機能と併せて使っていく(図4)。

次は、上記の緊急速報機能を補うア

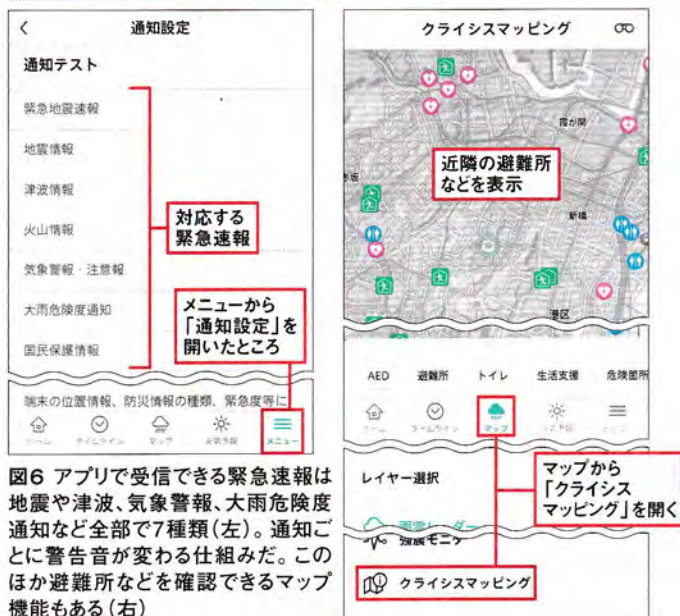
周辺のハザードマップも確認



重要な通知を見逃さないようにする



通知音や周辺の避難所などを確認



緊急時は速報番組をライブ配信



アプリの導入だ。通常、緊急地震速報は、震度5弱以上の地震の発生が予想された際に、震度4以上が見込まれる地域に対して発表される。そのため、震度4未満だとスマホに速報が届かない。そこで別のアプリを使うわけだ。

お薦めは「特務機関NERV防災」。テレビアニメのような名称だが、機能は本格派。特に地震をはじめとする情報通知機能に優れる。導入時に通知、重要な通知、位置情報の利用という3つをすべて許可すると、現在地付近の各種情報を収集して注意すべきことを教えてくれる(図5)。緊急速報する項目は、地震や大雨など7項目。通知音は異なるので、通知テストで音の違いを確認しておこう(図6左)。このほか、災害時に役立ちそうなのが「クライシスマッピング」。地図上で、周辺の避難所などを確認できる(図6右)。

もう1つのお薦めアプリは「NHKニュース・防災」(図7)。こちらは、NHKが災害発生時に生放送する速報番組をライブ視聴できるのがほかにはない特徴。このほか緊急速報機能、自治体が配布するハザードマップを表示する機能もある(図8)。

緊急速報の受け取り態勢が整ったら、通知機能も再確認する。なぜなら設定によっては、通知を見逃す危険があるからだ。当たり前だが緊急速報アプリの通知をオフにするのはNG。さらにiPhoneなら通知の要約、グループにまとめる機能はオフに(図9)。An

SOS発信で家族と通話&現在地共有

緊急 SOS

スマートフォンで次の操作が行われます。

- ✓ 090に電話する
- ✓ 連絡先と現在地を共有する
- × 動画を撮影する

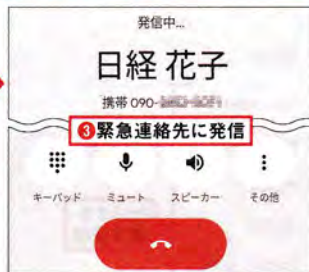
① サイドボタンを5回連続で押す

3秒間押し続けると開始します

② 長押しして SOS 発信



⑤ 通知した現在地



③ 緊急連絡先に発信



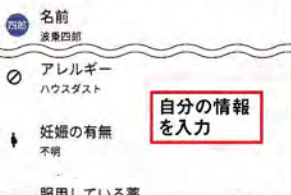
SMSで現在地を通知

④ タップ リアルタイムの現在地を共有しています

図13 サイドボタンを5回連続で押すと、緊急SOS機能が起動(①)。画面の丸部分を長押しすると、緊急連絡先に電話がかかり(②③)、現在地の共有などを実行する(④⑤)

緊急時用に自分の医療情報も登録

医療に関する情報



自分の情報を入力

図14 図12の「安全性と緊急情報」設定の「医療に関する情報」に自分の情報を入力(左)。この設定を済ませると、スマホのロック画面から情報を確認してもらえるようになる(①②)



① 下端から上にスライド、次画面で「緊急通報」をタップ

② スライドすると図14左で登録した情報を表示

2救命・SOS発信 瞬時に119番や家族へ発信!

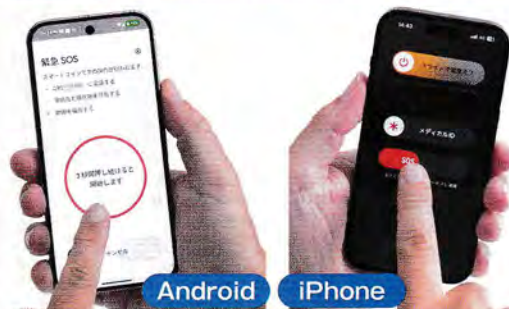


図11 電話で警察(110番)や救急(119番)、または家族に助けを求めるときに使うのが緊急SOS機能。サイドボタンを5回押すなどで機能呼び出せ、即座に電話をかけられる

Androidは指定先への緊急SOSが可能

安全性と緊急情報

Android

緊急情報サービスを開く

医療に関する情報 氏名、血液型など 図14へ

緊急連絡先 1件の連絡先

SOS 緊急 SOS ON

SOS

緊急 SOS を設定して、すばやく支援を要請できるようにしましょう

緊急時に電源ボタンをすばやく5回以上押し続けたら

有効にしない

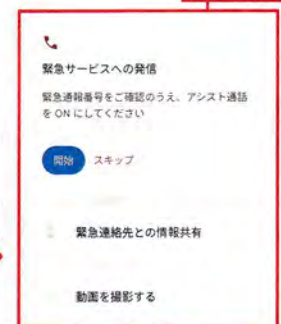
設定を開始

図12 Androidは、家族などを緊急連絡先に指定できる。図3右上の設定の「安全性と緊急情報」から「緊急SOS」を有効にし、発信や緊急連絡先との現在地共有、緊急SOS実行時にスマホのカメラで動画を撮ることを許可する

緊急時のアクションの設定

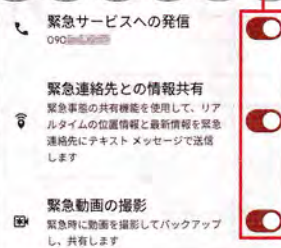
緊急 SOS を開始すると、スマートフォンで以下のアクションが自動的に行われます。

3つの項目を設定



緊急 SOS

すべてオンになった



Androidはアプリを一時停止する機能も見直し対象だ(前ページ図10)。2つめはスマホから電話で助けを求められる「緊急SOS」機能。iPhoneはサイドボタンと音量ボタンの長押し(注1)、Androidはサイドボタンの5回連続で押すことで、警察などへ緊急SOSを発信できる(図11)。いざというときに通常の発信手順をすっ飛ばせるのが、緊急SOSの強みだ(注2)。特にAndroidの場合は、指定した緊急連絡先にも発信と現在地の共有が行われるため、家族を緊急連絡先に登録しておけば探してもらいやすくなる(図12、図13)。また緊急SOSには、氏名や住所などの個人情報、持病や服用薬などの医療情報を登録する機能もある。この情報はスマホのロック画面上からアクセスできるため、救助された際に役立つ可能性がある。確実に見てももらえとは限らないが、登録しておいて損はない(図14)。

iPhoneの緊急SOS機能は、原則として110番や119番などへの発信と、家族への現在地共有、医療情報通知の3点セット(図15、図16)。ただしAndroidのように、家族を緊急連絡先としたSOS機能を使いたいなら、現状では「ショートカット」アプリで自作するしかない(図17、図19)。

最後は重要書類をスマホに保存する作業。ここでの重要書類とは、本人確認に役立つものや、治療に役立つ服薬履歴、加入している保険に被害申請を

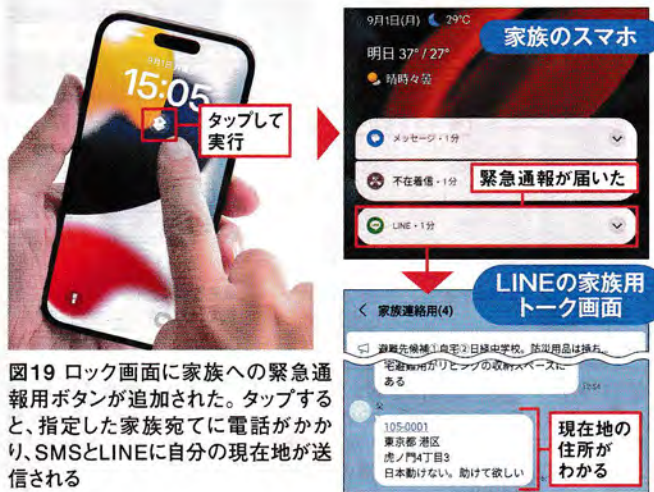
[注1] iPhone 7以前ではサイドボタンを5回連続で押す

[注2] 実際に操作すると、警察などに通報することになるので注意。本番ではなく試した際に、電話がつながった、あるいは電話を切った後に折り返し電話がかかってきた場合は、誤発信であることを伝えよう

ロック画面から自作ショートカットを実行



図18 作成したショートカットは、実行に使うウィジェットとして、上記手順でロック画面に配置する(①～⑦)



するとときに役立つものになる。いずれも流出したら困る個人情報ばかりなので、自分以外は見られないように安全に管理する方法がマストとなる。

具体的な方法を見ていこう。iPhoneで重要書類を保存するのなら、標準の「メモ」アプリがオススメだ。このアプリでは、作成したメモに対してロックをかける機能がある。つまり最新のiPhoneなら、顔認証が合致しない限り、保存した重要書類を見られないというわけだ(次ページ図20)。

重要書類を保存する方法は、メモアプリ上からスマホのカメラを起動。書類を撮影してメモに貼り付けるだけ。あとはメニューにあるロック機能を有

iPhoneにも緊急SOS機能が備わる

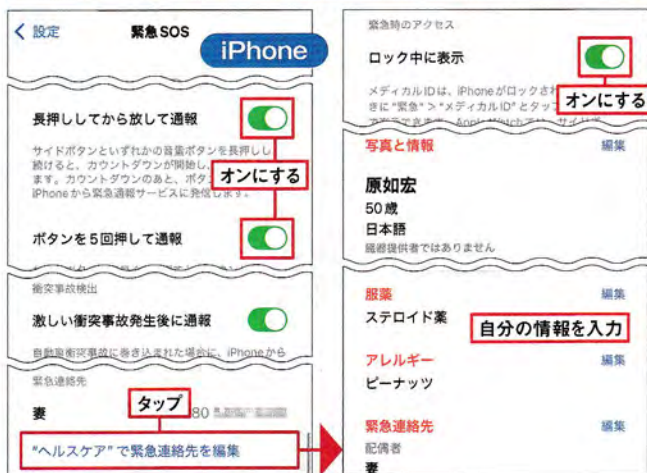


図15 iPhoneは、「設定」の「緊急SOS」から起動方法を選択。初期設定は長押しだが、Androidと同じサイドボタン5回押しも利用可能。このほか医療情報などを「…緊急連絡先を編集」から入力する

SOS機能呼び出して緊急連絡先に発信



図16 サイドボタンと音量ボタン[注3]を長押しすると左の画面に切り替わる(①)。ここでSOS(緊急電話)を右にスライドすると、いずれかの緊急機関に電話をかけられる(②③)

1タップで家族に発信&現在地共有する



図17 iPhoneで家族に緊急通報するには、「ショートカット」アプリを使って専用ボタンを作るとよい。アプリを起動し、新規作成を実行(①)。実行する内容に、現在地を取得、その現在地をSMSと家族のLINEで送信、さらに家族宛てに発信という項目をアクションの一覧から登録する(②③)

[注3] 音量上げ、同下げどちらか1つ

Androidは「安全なフォルダ」にまとめる

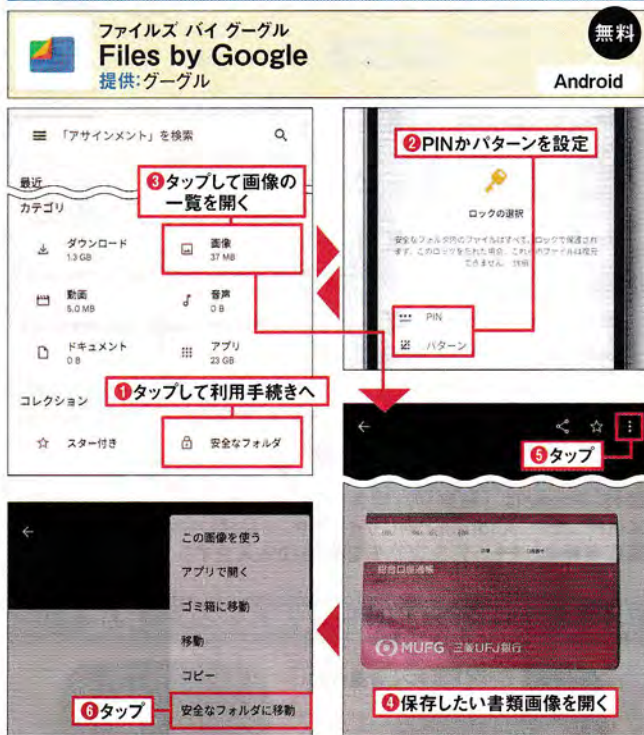


図22 Androidは「Files by Google」アプリの「安全なフォルダ」に重要書類を保存する。初回起動時に解除用のPINかパターンを設定(1,2)。事前に撮影した重要書類を開き(3,4)、メニューから「安全なフォルダに移動」を実行する(5,6)

保存しておきたい主な重要書類

保存する書類	撮影する項目	災害時に生かせる場面など
1 健康保険証	記号・番号、氏名、生年月日、保険者番号、有効期限が読める解像度で表裏	受診時の資格確認／再発行手続きの初動／避難所での医療相談
2 運転免許証／パスポート	免許・顔写真、有効期限、番号、住所／パスポート：顔写真ページ＋所持人記入欄	本人確認(各種申請・受取)／罹災証明や支援申請／レンタカーなどの本人確認
3 お薬手帳・処方箋ラベル／服薬リスト	直近の処方履歴ページ、処方箋ラベル、服用中の薬名・用量、アレルギー一覧	かかりつけ不通時の投薬継続／代替薬の処方／救急搬送時の情報提供
4 火災・地震・生命・自動車などの保険証券	会社名、契約者、証券番号、契約内容の要点、連絡先	被害申請・保険金請求の連絡／補償内容の確認／解約・再契約相談
5 預金通帳の表紙＋口座番号／金融機関の緊急連絡先	通帳表紙、口座番号、金融機関名／支店名、コールセンター番号	口座確認／キャッシュカード再発行／支援金・給付金の受取手続き／引落とし停止や再開
6 賃貸契約書／不動産権利関係	表紙、契約者名、物件住所、契約番号、管理会社・大家の連絡先、重要事項の要点	修繕・退去・一時避難の相談／家財保険請求／罹災証明などの根拠提示
7 公共料金(電気・ガス・水道)のお客さま番号など	検針票・請求書の「お客さま番号」や供給地点特定番号、マイページの番号	復旧・停止・再開の電話やウェブ手続き／料金猶予・減免申請／名義・住所変更
8 車検証・自動車保険証券／自動車のナンバー	車検証(車台番号・登録番号)、自賠責／任意保険の証券、ナンバープレート	浸水・損傷の保険申請／レッカー手配／盗難・移動時の照会
9 家族写真(最近の顔写真)	正面の顔・全身・家族集合など、特徴がわかる最新写真	避難所での照合／迷子・安否確認の掲示・SNS共有／身元確認の補助
10 母子健康手帳／各種診察券	母子健康手帳表紙、予防接種・既往歴ページ／診察券の病院名、患者ID	乳幼児の健診・接種履歴確認／他院受診時の情報提供／薬歴確認

図23 スマホに保存しておきたい主な重要書類と、撮影しておくべき項目、書類がどのような場面で役立つのかをまとめた。紛失する可能性を考え、重要な書類は画像としてスマホ内に保存しよう

重要書類を保存する

iPhoneは鍵付きメモに書類を登録

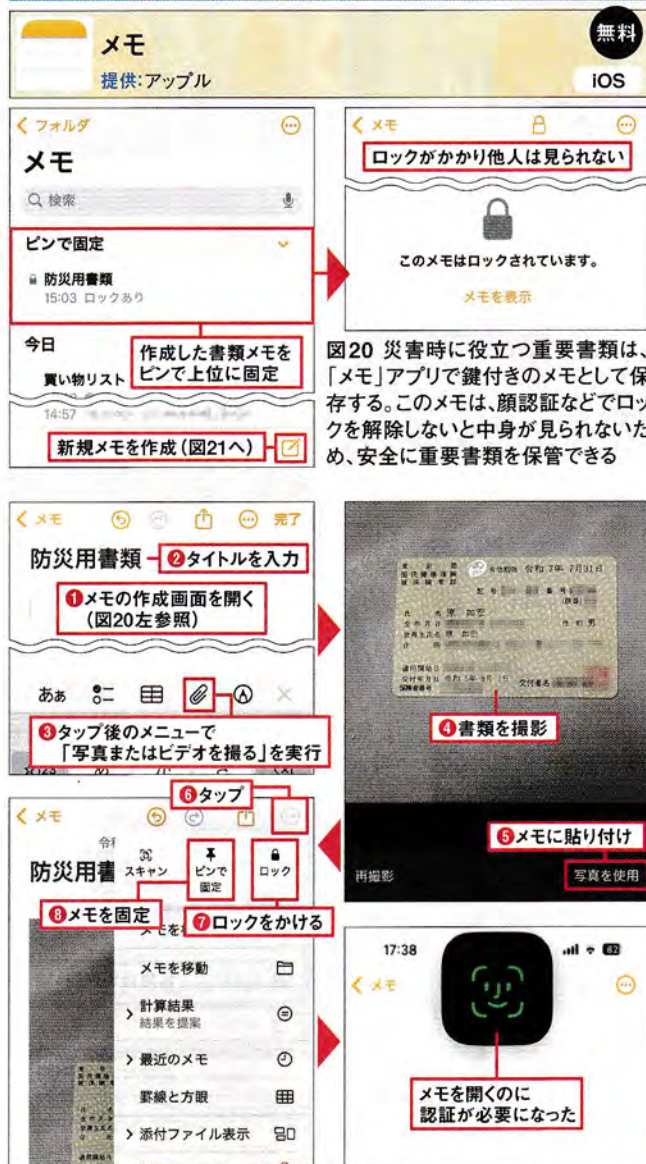
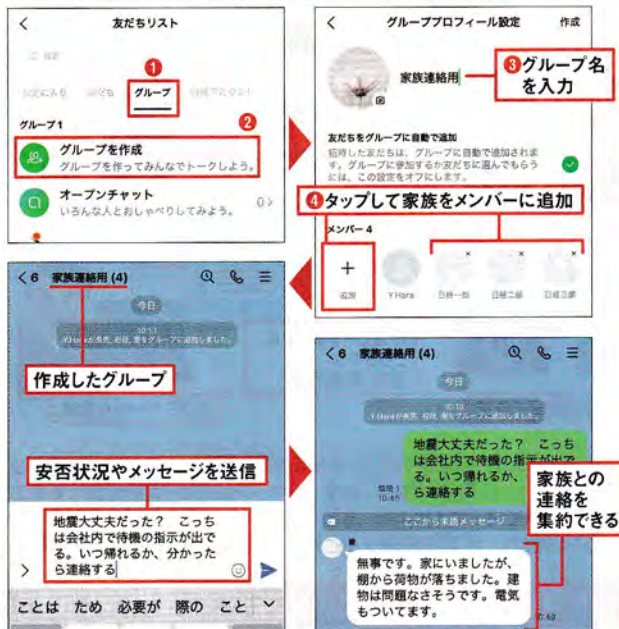


図21 メモの新規作成画面を開き、名前を付けて、書類を撮影するか(1~4)、ダウンロードした書類のPDFをメモに貼り付ける(5)。登録が終わったら、メニューの「ロック」を実行(6,7)。さらにピンで固定をすると(8)、図20左のように常にメモ欄の先頭に表示される

効にすると、iPhoneのセキュリティ設定で顔認証(Face ID)を設定済みならロックがかかる。さらに重要書類メモをピンで固定すると、いざというときに使いやすくなる(図21)。

一方、Androidは「Files by Google」アプリの「安全なフォルダ」を使う(図22)。同機能は設定したPIN、またはパターンで閲覧制限をかけられる。解除方法を登録したら、カメラアプリに切り替えて書類を撮影。先のアプリに戻り、撮影した書類の写真を開いて保存場所を「安全なフォルダ」に変更する。書類ごとに必須項目があるので、図23を参考に撮影して書類を保存しておこう。

連絡を取り合う家族用グループを作成



重要事項をトーク欄の上部に固定



図3 「LINE」アプリの「ホーム」にある「友だちリスト」(図2左上参照)を開き、「グループ」タブで「グループを作成」を実行(1,2)。グループ名と参加するメンバーを登録する(3,4)。作成したグループのトーク欄を使うと、家族全員へ同時にメッセージを送れる(左下、右下)

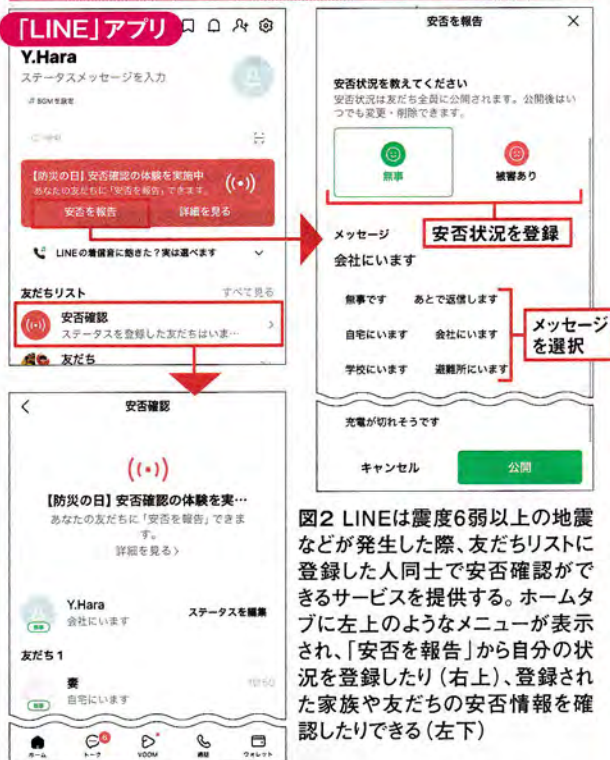
ただし大地震以外で連絡を取り合う場合もあるため、家族用グループLINEも活用しよう。グループを使う利点は、メッセージをグループメンバーに一斉送信できること。一人ひとりにメッセージを送る必要がないため、最小限の通信で連絡を取り合える(図3)。避難場所の指示など、重要な連絡内容を伝える際は、トーク欄に固定して目立たせるのがコッパ(図4)。

2つめの連絡手段は、家族にLINEを使えない人がいたり、通信環境が遮断されたりしても使えるNTTの伝言サービス。特に通信不能になったと

LINEや伝言サービスなどを駆使する



まずは普段使っているLINEで安否確認



個人で使いやすい連絡手段の筆頭はLINEだ。普段、家族間でメッセージをやり取りしているなら、新たにサービスを導入する必要がない。さらにLINEには、震度6弱以上の地震発生時などに安否確認サービスを提供する仕組みがあり、家族や友だちの状況を確認できる。この機能を使えば電話が

つながらなくても、自分が無事であることを伝えられる(図2)。

家族が離れている時間帯に災害が発生した。身の安全を確保した後、次に考える行動は家族への連絡、安否確認だろう。通信状況によっては電話が使えない場合が考えられるため、複数の手段を用意したうえで、家族皆が使えるようにしておきたい(図1)。

安否確認

離ればなれになった家族の無事確かめる策は?

「災害用伝言ダイヤル(171)」の使い方



●操作メニューは4種類

1:伝言を録音 2:伝言内容を再生

→「1」「2」を選んだ場合はあらかじめ決めた電話番号を入力後に伝言の録音、または伝言の再生に進む

3:暗証番号付きの伝言を録音 4:暗証番号付きの伝言内容を再生

→「3」「4」を選んだ場合は、暗証番号と電話番号を入力してから、伝言の録音または伝言の再生に進む

図7 スマホの「電話」アプリ(上はiPhoneの画面)を開き、171に発信(①～③)。音声ガイダンスに従って伝言の録音、または再生をする(④)。暗証番号を設定するか否かで、2通りの操作方法がある

「災害用伝言板(web171)」の使い方



図8 スマホのブラウザで「災害用伝言板」サービスのサイトを開き、家族で決めた代表者の電話番号を入力(①)。「登録」ボタンをタップし、名前と安否、伝言内容を入力して登録する(②～④)

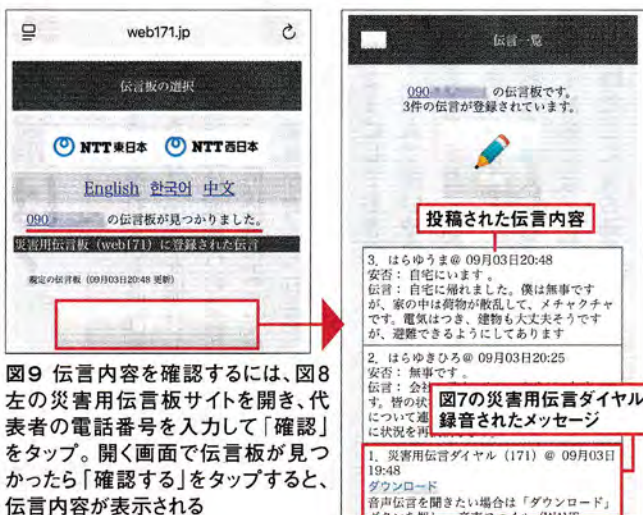


図9 伝言内容を確認するには、図8左の災害用伝言板サイトを開き、代表者の電話番号を入力して「確認」をタップ。開く画面で伝言板が見つかったら「確認する」をタップすると、伝言内容が表示される

音声とテキストで安否を伝える伝言サービス

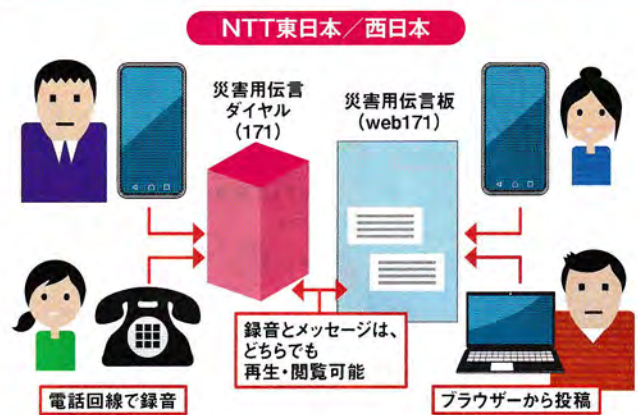


図5 災害時にNTTが開設する「災害用伝言ダイヤル(171)」と「災害用伝言板(web171)」。

災害用伝言ダイヤルと災害用伝言板の違いは?

サービス	災害用伝言ダイヤル(171)	災害用伝言板(web171)
記録形式	音声	文字
記録制限	1件30秒、1番号当たり1～20件(災害規模で調整)	1件100文字、1伝言板当たり最大20件
保存期間	運用終了まで(48時間の場合も)	最大6カ月(運用終了まで)
利用できる主な端末	固定電話(ひかり電話含む)、携帯電話、公衆電話(特設公衆電話含む)	スマホ、携帯電話、パソコン、タブレット
通知機能	—(※web171側との相互連携はある)	メール最大10件+音声1件に自動通知
利用者制限機能	録音、再生操作に暗証番号を設定できる	メッセージの投稿、閲覧ができる人をメールアドレスで限定できる
料金	無料(NTT以外の電話からの発信は利用者負担)	無料(通信料は利用者負担)

図6 災害用伝言ダイヤルと災害用伝言板のサービス内容をまとめた。公衆電話しか利用できない場合は前者、データ通信環境がある場合は後者が使いやすい

き、公衆電話や特設電話からメッセージを録音できる災害用伝言ダイヤルは重要なライフラインになる(図5)。

NTTでは、もう1つテキストベースで安否を伝えられる災害用伝言板サービスも提供。投稿内容は、前述の災害用伝言ダイヤルと連携するため、通信状況次第で使い分けられる(図6)。

災害用伝言ダイヤルと災害用伝言板の使い方は、図7～図9の通り。どちらもメッセージの投稿先に、電話番号を指定するのがポイントだ。このため家族でメッセージをやり取りするには、投稿先の電話番号を1つに決める必要がある。自宅に固定電話があればその番号、スマホだけという家庭なら代表

開けた場所から衛星経由でSOS発信



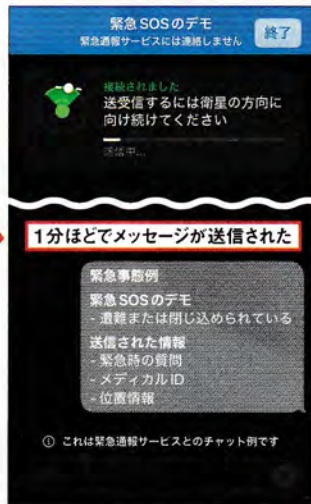
空の開けた屋外で
衛星通信に接続

図12 5Gなどのモバイルデータ通信、Wi-Fiともに使えない場合に衛星経由でSOSやメッセージ送信ができることも。iPhone 14以降の機能で、端末の初期設定後2年間は無料で使える



スマホを衛星に向けて

送受信するには衛星の方向
向け続けてください



1分ほどでメッセージが送信された

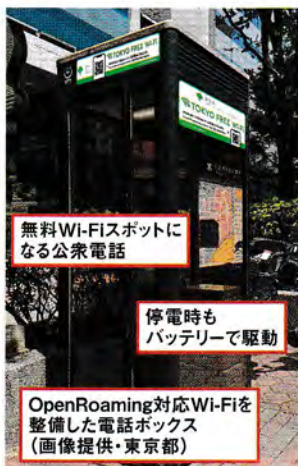
緊急事例
緊急SOSのデモ
- 遭難または閉じ込められている
送信された情報
- 緊急時の質問
- メディカルID
- 位置情報

① これは緊急通報サービスとのチャット例です

図13 上は「緊急SOS」設定から衛星通信のデモを実行したところ。試す際は屋外に出てから実行。画面に従ってスマホを衛星に向けて接続できると、メッセージの送信が実行される

災害時にデータ通信ができなくなったら…

災害で通信不能になると、町中にある無料Wi-Fiが頼みの綱。現在は「00000JAPAN」という無料Wi-Fiを提供する仕組みがあるので、まずはこれを探そう(図14)。東京都では、公衆電話をWi-Fiスポットに使う方針も打ち出した。停電してもバッテリーで動作するため、災害直後でも使える可能性がある。



無料Wi-Fiスポットに
なる公衆電話

停電時も
バッテリーで駆動

OpenRoaming対応Wi-Fiを
整備した電話ボックス
(画像提供・東京都)

図14 災害発生時専用の無料Wi-Fiサービスが「00000JAPAN」。パスワードなしで利用できる。このほか、東京都では公衆電話ボックスを無料Wi-Fiスポットとして利用する取り組みも始めている

●災害時専用の 無料Wi-Fi

【00000JAPAN
(ファイブゼロジャパン)】

●接続方法

Wi-Fi設定のSSID一覧から「00000JAPAN」を選択。案内ページで同意のボタンを押すと接続

●注意点

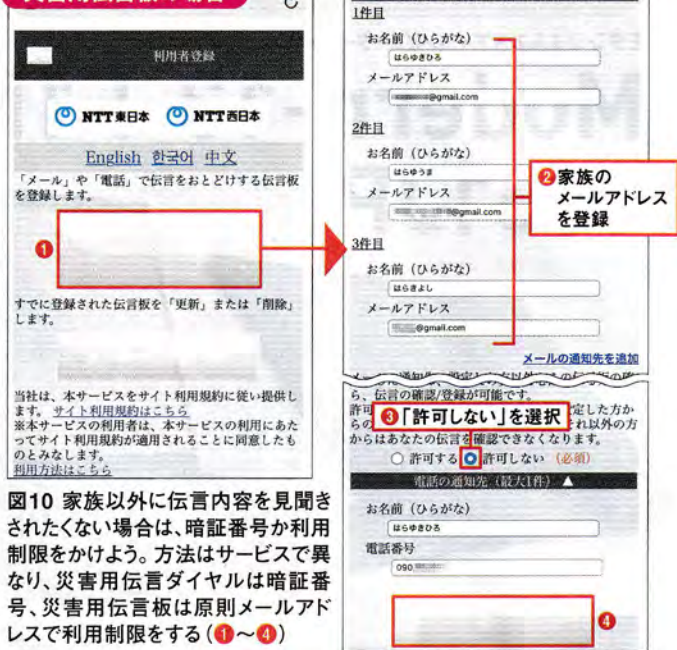
- ・通信は暗号化されていないため、ID・パスワード/カード番号などの入力は避ける
- ・安否確認や情報収集など最低限の利用にとどめる

他人に伝言やメッセージを知られたくないときは…

●災害用伝言ダイヤルの場合

メニュー選択時に、暗証番号付きの伝言録音は3番、その伝言内容を聞くときは4番を選び、それぞれ暗証番号入力する

災害用伝言板の場合



② 家族の
メールアドレス
を登録

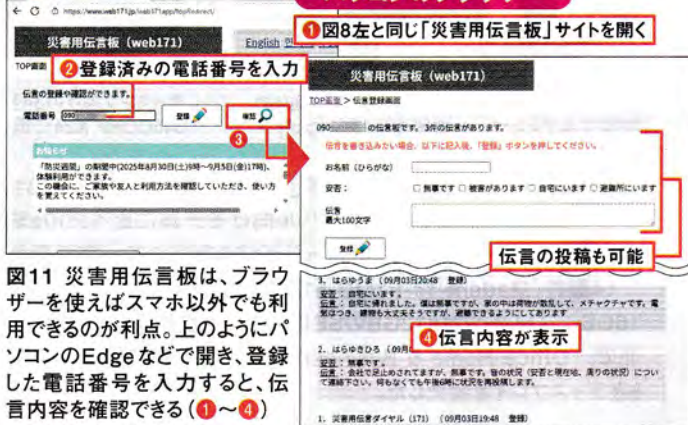
③ 「許可しない」を選択

④

図10 家族以外に伝言内容を見聞きされたくない場合は、暗証番号が利用制限をかけよう。方法はサービスで異なり、災害用伝言ダイヤルは暗証番号、災害用伝言板は原則メールアドレスで利用制限をする(①~④)

伝言サービスは連携し、パソコンでも確認が可能

パソコンのブラウザー



① 図8左と同じ「災害用伝言板」サイトを開く

② 登録済みの電話番号を入力

伝言の投稿も可能

④ 伝言内容が表示

図11 災害用伝言板は、ブラウザーを使えばスマホ以外でも利用できるのが利点。上のようにパソコンのEdgeなどで開き、登録した電話番号を入力すると、伝言内容を確認できる(①~④)

者の電話番号でやり取りするといった具合にあらかじめ決めておこう。あとは伝言を家族しか確認できなくするかどうかの判断。災害用伝言ダイヤルは4桁の数字で暗証番号を設定、災害用伝言板はメッセージの投稿や閲覧ができる人をメールアドレスなどで指定できる(図10)。また災害用伝言板は、通信環境があれば、スマホ以外の端末でもメッセージの投稿や閲覧が可能。被災地域以外ならパソコンのほうが楽だろう(図11)。

このほかiPhone 14以降は衛星通信でメッセージを送信する機能を利用できる。こちらも通信不能になった際には試す価値ありだ(図12、図13)。